

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成25年4月25日現在

機関番号：32689

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2010～2012

課題番号：22520334

研究課題名（和文） 中世フランス写本テキスト学への電子データベースの応用

研究課題名（英文）

Application of the “Concordance of Medieval Occitan” to the medieval french and occitan philology

研究代表者

瀬戸 直彦（SETO NAHIKO）

早稲田大学・文学学術院・教授

研究者番号：30206643

研究成果の概要（和文）：

フランス中世（オック語）の抒情詩における写本テキスト学（複数の写本により伝えられるヴァリエーションを本文校訂のさいにいかに関与すべきか、そしてそれが解釈にどう関わるのか）と、そのさいの電子データベースの応用について、マルカブリュのテキストを中心に考察を加えた。成果として2012年6月の第10回オック語オック文学研究国際学会において、マルカブリュの2作品のテキスト校訂と解釈につき発表をおこない、フォルケ・ド・マルセイユの校訂につき、従来の校訂における問題点と「イタリア学派」に属するスキラチオーティ氏による校訂の新しい方法論を確認して、2013年3月に同志社大学における「ロマニスト研究会」の発表でまとめた。

研究成果の概要（英文）：

The purpose of this investigation was to research on the way we can handle against the various variants and various versions offered by the “edition critique” of the troubadours. The COM (Concordance of Medieval Occitan) 2, furnished by the professeur Peter T. Ricketts, brings together the couplets of texts extant in the language from the first attestation to those belonging to the fifteenth century, but it doesn't contain the variants. It has taken the texts given by the best edition. On the poems of Marcabru (PC 293 25-26), I essayed to bring to light the several problems of critical edition of this troubadour. Furthermore, on the critical editions of Folquet de Marseille, I compared the methods employed by Stronski (1910) and that of Squillacioti (1998), extremely complicated but very suggestive.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2010年度	500,000	150,000	650,000
2011年度	500,000	150,000	650,000
2012年度	700,000	210,000	910,000
総計	1,700,000	510,000	2,210,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：文学・ヨーロッパ文学（英文学を除く）

キーワード：書誌学・文献学

1. 研究開始当初の背景

ピーター・リケッツ教授（ロンドン大学）によって編纂されつつある中世オック語の電子テキストは、2005年に刊行されたCOM2 (Condordance de l'occitan médiéval, t.2)をもってトルバドゥールの作品以外に、韻文による宮廷風ロマンや叙事詩をも含めたものまで収録された。これはオック語作品の語彙を検索するうえできわめて便利なツールではあるが、ヴァリエントを含まないので、テキスト全体をいかにとらえるかという問題を考えたさいに、不十分な点が残らざるをえない。

私は、リケッツ教授を平成19年度に前回の科学研究費補助金のプロジェクトにおいて招聘することができたさいに、日本フランス語フランス文学会の秋季大会（関西大学）で開催されたワークショップにおいてリケッツ教授ご自身と複数の日本人研究者とともに、このデジタル・アーカイヴの利用法と限界について議論を深めることができた。

本研究課題においては、研究者の共有財産ともいふべきこの便利なツールの性格をさらに見きわめてみたいと思う。すなわち、既存の校訂版のなかでリケッツ教授が最良のもののみとしたテキストを（若干の訂正を教授で手で加えただけで）収録したものであるという事実を踏まえたうえで、さらに各写本のヴァリエント（各写字生の提供するヴァージョン）をいかに生かしていくかということである。

具体的には、マルカブリュというトルバドゥールにつき、テキストの電子化の進む現在において、どのように対処すべきかを考察しようと試みた。なお、リケッツ教授によるCOMにかんしては、第3巻として、散文による中世オック語の作品が、さらに第4巻としては、トルバドゥールの各写本の具体的な読みをエディション・ディプロマティックの形で提供することが予定されているものの、資金難から第3巻はいまだ刊行されないままであり、第4巻はそのコーパスの膨大なことから、実現はなかなか困難なことが予想される。

2. 研究の目的

各写本のテキストをいかに考慮し、校訂に生かしていくべきかを、マルカブリュの具体的なテキストを題材にしながら、2011年のベジエでの学会発表においての意見交換から新しい知見を得る。すなわち、マルカブリュの難解な作品40あまりのなかから、ぜんたいが見渡せるような作品（作品25-26）を選

択して写本による収録状況を調査し、旧来のふたつの校訂版から漏れ落ちたものを拾い出してあらたな解釈の可能性を探ることである。

中世フランス抒情詩の異本（底本以外の諸写本）・異文（それらの提供するヴァリエント）を取り扱うにあたり、げんざいのところその方法論は袋小路に陥っている感は否めない。この問題は、テキストの本文校訂の方法に直結するが、中世のフランス文学においては、フランス・イギリスの研究者を代表とするジョゼフ・ベディエの提唱した一写本優先の方法と、イタリア（かつてのドイツ）人研究者の多くが採用する、いわゆる新ラハマン法によるオリジナルにさかのぼろうとする方法の対立が、新たな方向に向かわず、建設的な議論もあまり行われていないようである。

ベルナルド・セルキリーニはかつてこの二分法を批判して、いずれも固定したテキスト観念、つまりオリジナルか現存の一写本かという、いずれにしてもひとつの「権威」を押し付ける点では同じ態度だという。中世の口承の要素も多かったテキスト伝承を考えれば、コンピュータの画面でキーを押すと次々に各写本の読みがウィンドウに現れる方式が理想的なのではないかと主張する。当時のmouvance 可塑性・流動性のあるテキストを扱うのにこれがよいと言うのである。édition écranique（←画面 écran）とセルキリーニはこれを称するのであるが、実現は容易ではないし、ヴァリエントの比較を行う場合けして見やすいとはいえないのではないだろうか。

すでにédition synoptique（一覽校訂）と称して、すべてのヴァージョンを見開きで載せる試みがオランダにおいてファブリオを対象に実現しているものの、有効にこれが機能して利用されているとは思えない。また、抒情詩にかんしては、1960年代にすでにRipert Pickens教授が、ジャウフレ・リュデルのテキストの校訂を行うにあたって、それぞれの詩について、いくつものヴァージョンを校訂している。exhaustifな試みではなく、大方の書評も好意的ではなかった。考えてみれば、リケッツ教授のCOM4は、作者ごとではなくとも、各写本が収録する全体のテキストにおいて、この方向を目指したかったのであろう。

3. 研究の方法

(1) マルカブリュの40に及ぶ作品を検討する。Dejeanneによる校訂版と最新のGaut, Harvey, Paterson3名による校訂との比較。

(2) マルカブリュの作品から具体的に2作

品を選び、それにヴァリエントを重視する見地から新たに解釈を加える。それを第 10 回オック語オック文学国際研究学会に手発表。

(3) ファヴィオ・ジネリ教授を招聘して、イタリアにおける「新ラハマン法」の校訂についてセミナーを開催する。

4. 研究成果

(1) 実際にマルカブリユのすべての作品を検討することができて、その難解さと校訂の困難さをいくつかの論文において検証することができた。

(2) マルカブリユの 2 作品の解釈と校訂にかんする研究は、2011 年のベジエ(フランス)での国際学会で発表することができた。その成果は、近刊予定の報告集に収録される。

(3) ジネリ教授の招聘は今回は教授の多忙により実現しなかったが、マルカブリユだけではなく、散文テキスト(『秘中の秘』)のかかえる問題について考察を加えることができた(2013 年の論文)。散文テキストについては COM3 が刊行されていないので、今後さらに校訂の問題を深める必要があることがわかった。

(4) オック語文献学とその校訂の方法について、同志社大学のロマニスト研究会に招聘されて研究発表を行う機会にめぐまれた。そして、これを機に本文校訂の問題についてさらに考察を深めることができた。そこでは、フォルケ・ド・マルセイユの 2 種の校訂版について再検討を加えた。とくに 1999 年に出たスキラチオーティ氏の校訂はラハマン法によらず、つまりオリジナルのテキストを求めめることはあきらめるが、中間写本の読みは推定して、それを複数提出するというものである。その複雑な方法論を検討することができたのである。

すなわち、スキラチオーティ氏の方法は、従来のストロンスキーによるラハマン法によるテキストの危うい基盤によらず、また、かつて私が試みた C という写本によるフォルケ・ド・マルセイユの全体像を再現する方法にも批判的である。結果として、各作品ごとに共通の読みの多い、いくつかの写本グループを想定し、それぞれのグループにおいて(仮定した)上位写本の読みを推定して提出する。これは写本どうしの読みの混交 contamination の多い、トルバドゥールの写本においてはひじょうに複雑な操作が前提とされるし、結果的に、かつてのラハマン法と同じく、現存写本の読みのつぎはぎ作業に

ならざるをえないのではないか。

私としてはけっきょく、不可知論の陥る危険を避けて、現存の伝本、すなわち一写本に拘泥する方法をさらに深めるべきであると考えるに至った。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 6 件)

① Naohiko Seto, «Messages ambigus dans le diptyque de l'étourneau (PC 293, 25-26)», in *Actes du 10e congrès international de l'AIEO (Béziers, 12-19 juin 2011)*, éditées par Carmen Alen-Garbato, Montpellier, Lambert-Lucas, 2013, pp.221-232 (掲載予定・査読あり) .

② 瀬戸直彦 「『秘中の秘』覚え書き—その養生術(中世オック語版)について」、『早稲田大学大学院文学研究科紀要』第 58 号—2, 2013, pp.35-56 (査読なし) .

③ 瀬戸直彦 「人生の四時期—オジル・デ・カダルスとフィリップ・ド・ノヴァールの場合」『ヨーロッパ中世の時間意識』(甚野尚志・益田朋幸編, 知泉書館), 2012, pp.143-165.

④ 瀬戸直彦 「ギョーム 9 世つれづれ」『流域』(青山社)第 68 号, 2011, pp.519-531 (査読なし) .

⑤ Naohiko Seto, «Le vocabulaire féodale dans Gaucelm Faidit : sur jove senhoratge (PC 167, 52, v.43)», in *L'Occitanie invitée de L'Euregio, Liège 1981-Aix-la-Chapelle 2008, Bilan et perspectives. Actes du 9e congrès international de l'AIEO, Aix-la-Chapelle, 24-31 août 2008*, éditées par Angelica Rieger, Aachen, Shaker, 2011, pp.519-531 (査読あり) .

⑥ 瀬戸直彦 「マルカブリユの“椋鳥の歌” 2 部作について」『早稲田大学文学研究科紀要』第 56 号—2, 2010, pp.14-21 (査読なし) .

[学会発表] (計 3 件)

① 瀬戸直彦, «Messages ambigus dans le diptyque de l'étourneau», 10e Congrès International de l'AIEO, 2011 年 6 月 16 日, フランス, ベジエ, CIRDOC-Université Montpellier.

② 瀬戸直彦, 「中世における二つのトポス—『雅歌』と『秘中の秘』」, 2012 年 6 月 30 日

ヨーロッパ中世・ルネサンス研究所（早稲田
大学文学学術院）

③2013年3月10日（同志社大学ロマニスト
研究会）

〔図書〕（計 0 件）

〔産業財産権〕

○出願状況（計 0 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計 0 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

瀬戸 直彦 (Naohiko Seto)
早稲田大学文学学術院・文学研究科・教授

研究者番号：30206643

(2) 研究分担者

なし

(3) 連携研究者

なし